

# AMS-119 ギラ・ドーガ

[部分編集]

## 革新の波瀾 / ベースドブースター3 / 戦乱の兇刃 / 知略の猛将

UNIT

U-65 赤 1-3-2 C

(自動B)：このカードがプレイされて場に出た場合、ターン終了時にカード1枚を引く。

宇宙 地球 [3][1][2]

---

3国のキャントリップユニット。

格闘力の3点が絶妙な値で、攻撃要員としても十分頼もしく、ブロックに回っても多くのユニットと相打ちを取れる値。

「革新の波瀾」収録当時の赤系デッキは、核の衝撃《1st》を利用するカウンターサザビーや混戦サイコ、アナハイム・エレクトロニクスを絡めた国力ブーストデッキ、捕獲兵器を用いたコンボデッキやシュートデッキが主流であった。

このいずれもが、中途半端な中盤戦力は不要なデッキであったため、このカードがトーナメントシーンで活躍することはなかった。

またその後、「相剋の軌跡」では赤単サイコミュが流行したが、キーカードである戦士、再び.....との相性の悪さから、やはり見向きもされなかった。

ようやく日の目を見たのは「烈火の咆哮」にて、ガンダムが収録されてから。

赤単デッキとしてデザインされたカウンター が除去の代わりに加速する狂気を採用し、それをリロールさせるため「だけ」に、手札を減らさず展開できるユニットとして採用された。

その後、手札が減らない点だけではなく、十分な戦闘力を持つ事なども再評価され、強力な中盤カードとしての地位を確立した。

その後、加速する狂気にエラッタが出たものの、このカードとのシナジーは健在であった事でむしろ重要度は増した。更にエスコートが流行した際も、やはりシナジーがあるという事で採用され続けた。

しかし「霸王の紋章」におけるリングルールの登場とMFデッキの流行により、ハンデス効果をトリガーしてしまうデメリットが重要視され、採用されないバージョンも増えた。

なおカウンター は、その後もしばしばトーナメントシーンに顔を見せる長寿デッキとなるのだが、その環境に合わせて採用されたりされなかったりしている。

どんなカードでも、そのカードが活躍するためには、それが持つカードパワーを十分に活かせる環境が必要である、という事がよく分かる事例である。

- 対になっているジェガン《BB3》とは、評価に大きな差がある。この様な立場のユニットにとって防御力はあまり重要では無く、逆に格闘力などが非常に重要となる為だ。
-